

こちら特報部



▲(右をさ
市長目
市人人
淳2人
元から
朴か訪
ねた喜
世子さ
んの一
行=韓
国ソウ
ル市市
長と面
会した

「強く生きて」 海外交流贈る

韓国原発建設抵抗の三陟市へ・ソウル市長と面会

まず訪れたのは海沿いの町、三陟市。原発建設にあつた住民運動の足跡を記録した映像の鑑賞会や記念植樹に参加し、海水浴やソウル市も訪ねた。気候

自然の洞窟見学も楽しんだ。現地の若者も一緒に泊まり、夜遅くまで日本語と韓国語を教え合った。「原発事故がもたらした負の側面は、復興が前面に

変動に関する訴訟を準備する高校生らが開く集会に招かれ、小中学生が原告になる子どもも脱被ばく裁判について、経過や事故後の生活などを紹介した。

朴元淳市長との面会もなかった。ソウル市長を訪れた福島の子どもたちは「避難で家族と離れ離れになることがあつてつらかった」

「事故が起きてから転校を繰り返した」などと語った。

「原発事故がもたらした負の側面は、復興が前面に

「子どもたちは想像した以上に韓国の人たちとの交流に積極的でした。『希望が持てる』と思えました」と振り返る喜世子さん。来

喜世子さんと子どもたちの旅は、原発事故がもたらした放射線の影響から一時的に離れる「保養」という目的も兼ねていた。しかし、

これまで民間団体が取り組んできた保養事業をみると、放射線についての考え方はさまざまで、差別の問題も絡んで状況は複雑だ。保養についての相談を受けてきた支援団体「リフレッシュサポート」の調査によると、二〇一六年十一月

一七年十月に少なくとも延べ約一万二千人が保養に参加しており、根強いニーズがあることが浮かび上がる。

福島離れる「保養」根強いニーズ



しかし国の主導で保養を実施するチェルノブイリ原発事故の被災地と違い、日本の場合は民間団体が担い手となっている。

近著「原発事故後の子ども保養支援」で活動体験をつづった足田香澄代表(三三三)は「国は避難者が被災地に帰還するよう促している。被災地から一時的に離れよ

保養の現状について説明する足田香澄さん=東京都千代田区で

民間頼み「差別助長」批判も

うとする保養は取り組みづらいのではないかと語る。保養が「放射線から離れる」という目的で「一致しているわけでもない。『被災者が思うようにできない自然体験活動を補うほか、リフレッシュする場としてとらえる例も目立つ』(足田さん)

保養の実施団体は、把握できているだけで二百八十九団体に上る。百三十二団体が回答を寄せたアンケートでは一団体当たりのメンバーは九・二人。小所帯であるために、資金や人手の問題で継続できなくなつた団体も出てきている。

最近はこちらに、「保養は『福島は危険』と騒ぐ活動」だとみられ、「差別を生む」と非難されることもあるという。リフレッシュサポートにも批判メールが百通近く届いた。

「原発事故がもたらした負の側面は、復興が前面に

「子どもたちは想像した以上に韓国の人たちとの交流に積極的でした。『希望が持てる』と思えました」と振り返る喜世子さん。来

「子どもたちは想像した以上に韓国の人たちとの交流に積極的でした。『希望が持てる』と思えました」と振り返る喜世子さん。来

「子どもたちは想像した以上に韓国の人たちとの交流に積極的でした。『希望が持てる』と思えました」と振り返る喜世子さん。来

「子どもたちは想像した以上に韓国の人たちとの交流に積極的でした。『希望が持てる』と思えました」と振り返る喜世子さん。来

「子どもたちは想像した以上に韓国の人たちとの交流に積極的でした。『希望が持てる』と思えました」と振り返る喜世子さん。来

「子どもたちは想像した以上に韓国の人たちとの交流に積極的でした。『希望が持てる』と思えました」と振り返る喜世子さん。来

ポイントメモ

生き抜くための安らぎの時。子どもながらに原発事故裁判という重荷を背負うならなおさら保養は大切だ。海を渡り、社会問題に目を向ける同世代たちと交流した時間は、この夏一番の宝物になったにちがいない。かつて自民党も賛成した「子ども被災者支援法」は誰のためであったのか。(直)

2018年8月27日